

# 指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和4年度		
施設名	秋田県環境と文化のむら	設置年	平成 7 年
所在地	南秋田郡五城目町上樋口字山田沢156番地の1		
指定管理者	むつみ造園土木株式会社		
県所管課	自然保護 課	調整・自然環境 チーム	

## 1 施設の概要

設置目的	里山の自然と触れ合い、及びその自然のもたらす恩恵により築かれてきた文化について学習する機会を提供することにより、人と自然との関係について理解を深め、もって県民の環境に関する意識の高揚に資する。					
県の施策上の施設の位置付け	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における、当該施設の位置付け・目標 ----- 生物の多様性の確保と自然公園等の適正な管理					
	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための取組として、当該施設に求められているもの ----- 自然環境学習拠点施設等の利用者数の増加					
施設の面積	51.90ha					
主な設置施設	自然ふれあいセンター、愛鳥山荘、炊事棟、野鳥観察舎					
指定管理業務の内容	料金制	有（利用料金併用制 ・ 完全利用料金制） <b>無</b> （指定管理料制）				
	料金設定					
	サウンディング実施対象施設 ※	×	←○、×を記入			
	指定期間	H31.4.1		～	R6.3.31	
	営業期間・時間	通年（月曜日と年末年始は休み）午前9時～午後5時				
	(1) 自然ふれあいセンターを主とした使用の許可等に関する業務 (2) 施設及び設備の維持管理に関する業務 (3) 秋田県環境と文化のむらの利用の促進に関する業務 (4) 環境と文化のむらの管理に関し知事が必要と認める業務					
自主事業の内容	○年15回に増やした定期自然観察会の充実、利用者ニーズ把握・反映 ○環境省及び日本野鳥の会秋田県支部との野鳥観察会や作品展示の相互連携 ○自然ふれあいセンター、愛鳥山荘の利用（写真展、企画展） ○五城目町「きゃどっこ祭り」等、イベント連携					
直近3年の年間利用者数	R 2	14,634 人	R 3	14,139 人	R 4	12,740 人
直近3年の年間料金収入	R 2	千円	R 3	千円	R 4	千円
直近5年の収支決算（単位：千円）	H 3 0	R 元	R 2	R 3	R 4	
収入計	6,661	6,427	6,546	6,546	6,585	
利用料収入						
指定管理料	6,661	6,427	6,546	6,546	6,546	6,546
その他収入						39
支出計	6,674	6,699	6,276	6,543	6,893	
人件費	4,314	4,241	4,191	4,231	4,839	
人件費以外	2,360	2,458	2,085	2,312	2,054	
差 引	▲ 13	▲ 272	270	3	▲ 308	

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の2～3年前にサウンディング（官民対話）を実施する。

## 2 観点ごとの評価

### (観点Ⅰ) 施設の設置目的(施設の目指す姿)の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

※協定書に記載した運営方針・施設の利用目標を記載  
(R6年度以降に指定管理を開始・更新する施設から基本協定書に定めることとなっているため、それまでは記載不要)

○目標の設定(毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標)

令和4年度の目標	利用者数 14,500人
----------	--------------

○指定管理者による実績報告

直近3年の実績	年度	R元年度	R2年度	R3年度
	目標	17,000	16,500	16,000
	実績	16,094	14,634	14,139
	達成率	94.7%	88.7%	88.4%
令和4年度の実績	実績	12,740	達成率	87.9%
	具体的な取組とその効果	長引く新型コロナやクマ出没の影響もあり、従来通りの人出が戻らなかった。保育園・幼稚園や小学校からの来園者が伸び悩んだことが原因であるが、その状況にあってもキャンプ利用が増加し、週末や休日には多くの方々が賑わった。		
令和5年度の目標(設定根拠)	目標	13,500人		
	設定根拠	幼保、小学校など教育関連の団体利用を促進させ、ふれあいセンター8,500人、自由散策4,500人、文化の館500人の全施設合計13,500人を目指します。		

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

### (観点Ⅰ) の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	B	野外活動を安全安心に楽しめる施設を目指し、魅力ある定期観察会や自然工作などの随時受け入れを実施したが、団体利用者集客の対応や施設の情報発信が足りなかった。
	県(所管課)	B	

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

また、施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)

B: A及びC以外

C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

## (観点Ⅱ) 施設の有効性(利用者の満足度)の向上に関する取組

### 【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度の状況 (直近3年)	R元年度	R2年度	R3年度	
	97.2%	98.0%	98.7%	
令和4年度の実績	実績	96.80%		
	具体的な取組とその効果	自然状況は日々変化しているため、散策路の状況確認や危険箇所の点検、施設の修繕や美化を行い、利用者が安全安心、快適に楽しめるように努めた。		

## (観点Ⅱ) の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	A	当施設は里山環境にあるため、危険や注意が必要であるが、あまり制限をかけずに自由に野外活動を利用して頂き、安全安心に自然とふれあい、自然の素晴らしさを身近に体験できる様に対応した。
県(所管課)	A		

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A：満足度80%以上 B：A及びC以外 C：満足度60%未満

## (観点Ⅲ) 効率性の向上等に関する取組

### (1) 経費の低減

#### 【ポイント】

施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和4年度の実績	経費の低減実績	指定管理料に占める人件費の割合が7割以上となっており、最低賃金値上がりや人手が少ない状況において、人件費は削減できないため、経費を効率的に低減させる取組みはできなかった。
	具体的な取組とその効果	光熱費を節減するため、施設内の照明灯や自動ドアについて適正管理を行い、お客様にご迷惑をお掛けしない範囲での節電を行った。また、補修が必要となる箇所の早期発見・早期修繕に努め、修繕を必要とする作業は出来る限り外注労務に頼らずに、常駐するスタッフにより実施した。

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

### (2) 収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

#### 【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和4年度の実績	収入の増加実績	
	具体的な取組とその効果	

### (観点Ⅲ) の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	指定管理料に占める人件費の割合が7割と高いため、経費低減は難しいが、作業効率化、無駄な動きや手戻りなどを無くし、従事する人のレベルアップを計る等の経費削減に取り組んだ。
	県 (所管課)	A	指定管理料制施設であり、経費削減に務めながら運営されている。

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A：(1) 経費の低減、(2) 収入の増加とも前年比で5%以上改善

B：A、C以外

C：(1) 経費の低減、(2) 収入の増加とも前年比で5%以上悪化

### (観点Ⅳ) 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

#### 【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

#### ○指定管理者による実績報告

令和4年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の安全利用 危険の排除、クマ対策（電気柵、草刈、掃除）、ヤマビル、ハチ、ヘビなど 危険生物発見時の対応実施</li> <li>○自然・里山を活かした環境学習・維持管理 自然散策や環境学習の充実、自然工作などの実施 保育園・幼稚園、小学校など授業の一環として遠足や校外学習に施設を利用 、自然体験学習の指導実施</li> <li>○現在ある施設の有効利用 キャンプ施設利用、愛鳥山荘をPR</li> <li>○様々な世代に対応した観察会の充実 参加して魅力あるもの、楽しいものを実施 定期観察会を毎月1回以上実施し、利用者ニーズを把握し、反映</li> <li>○告知・広報活動 近隣市町村等（潟上市、五城目町、井川町、八郎潟町）の広報誌に、毎月 の イベント開催のお知らせを掲載 また、Facebookやホームページに情報や季節の見所などタイムリーに情報 発信</li> </ul>
--------------	---

### (観点Ⅳ) の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	クマの出没や新型コロナで落ち込んだ利用者数を回復させるまで至らなかったが、キャンプ利用者が大幅に増加した。自然状況は日々変化するため、散策路の状況確認や危険箇所の点検、安全管理、施設美化に努めた。定期観察会もリピーターに支えられ、多くの方が参加するため、期待に応じて楽しい観察会を実施した。今後は様々な世代や団体利用を増やす工夫が必要と考えている。
	県 (所管課)	B	管理運営に関して重大な問題点は見受けられない。

【評価基準】 A：順調（改善点なし）、B：概ね順調（重大な問題点なし）、C：改善が必要（重大な問題点あり）

県（所管課）の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

## 【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】

※全施設記載

### ○県の施策の達成状況

(施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等)

・里山の自然と触れ合い、その自然のもたらす恩恵により築かれてきた文化について学習する機会を提供する場として、自然環境学習拠点施設等の利用者数の増加に寄与している。

### ○施設運営の課題

・施設の老朽化。

### ○今後の方向性

(県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等)

・必要な修繕等を実施しながら維持管理を行っていく。